

2011年年末。2012年、年頭——のごあいさつ。

シアターX 上田美佐子  
芸術監督／プロデューサー

私どもシアターXは、長年の気煩いことであつた「観劇チケットの額」を、千円ほどとするのが正統と決断いたし、すでに、今秋2011年9月以降のシアターXの自主企画公演からは、すべて千円（高校生以下五百円）で実行しております。

「正統」——の理由とは、その料金ならば日常のごほんを摂るぐらいの負担額で「劇場」という場における演劇を観に行くことができる考え方だした。五千円、一万円、一万五千円でも観る人はいらっしゃるでしょう。しかし私どもは今日、さらに不条理の深まる日本のこの状況下だからこそ、「千円なら、いいか?」と言つてくださるだろう。新たな人たちを、相手としたい。その人たちを「演劇」に引き寄せてみたい、と一念発起したというわけです。※文中、「演劇」とは舞台芸術の総称。

「採算は?」——それは愚問でしょう!

もともと五千円チケットであつてさえも演劇公演なるものが現状、大赤字なのは衆知のこと。ゆえに擬似アートビジネス風な「採算」うんぬんは茶番のたぐい。私どもの創出する演劇では芸術意図を審問され質をこそきびしく批評し合います。が、ビジネスとしての「採算」ヴィジョンなんぞは始めから持つつもりもなく、したがつて千円の奮勇結果には同情も不要。プロデューサーたる者、自らオトシマエをつけるのが筋すじ。当然。自明の理。と十分自認しております。

二〇一一年十二月吉日。

だけど、千円チケットでは「安からう 悪からう」と受けとられてしまうのでは……との涙の訴えも。

だから、今秋2011年9月・10月・11月と来日してくれたポーランドの新しい演劇世代の公演から千円と。ヤドヴィガ・ロドヴィッヂ駐日大使には「質が高いからこそ千円です」との趣旨を、ご承諾いただきました。

次いで11月、毎年ベルリンから飛来し恒例の 多和田葉子さん(作家・朗読)と高瀬アキさん(ジャズピアノ・演奏)とのパフォーマンス『菌じられた遊び』も、お二人の快諾を得て従来の4,000円から千円へと。

2011年(平成23年)9月27日 火曜日 享月 三 月 金



9月『ジキルとハイド』クロード・シルサルチック演出(ワルシャワ市)



10月『女たちの合唱』ワルシャワ演劇研究所



11月『ライロニア』劇団KANA(シェーテン市)

## 前衛劇、ポーランドから シアターX、3劇団招く

ポーランドから三つの演劇団が来日し、劇場「シアターX」(墨田区両国2丁目)で27日から11月下旬にかけて公演する。質の高い前衛劇で知られるポーランド演劇は、同劇場の「イチオシ」。「一人でも多くの人に見てほしい」と、チケット代も赤字覚悟の千円で設定した。

企画の中心になったのは上田美佐子さん。

「

上田さんは「約150年間、母國を蹂躪された悲しい歴史を持つ国だけに、その演劇の言葉は剣のような鋒さをもつた。演劇自身も屈折したことあります」。

が今回の千円といつ入場料設定は、通常の約3分の1。「ヨーロッパでは、人気のある芝居でも千円ぐらいで見ることができる。日本の劇場としては経営的に厳しいが、これを機会に『三度の飯』感覚で見に来ていただけたら」。(秦忠弘)

11月下旬まで 悲しい歴史「傾きの美学」  
入場料1000円

11月 シアターX 晩秋のカバレット2011  
『菌(きん)じられた遊び』

多和田葉子+高瀬アキ



サードに譲られて就任した。

劇場のこげら落としても、現

代前衛劇の先駆ともいわれた

ポーランドの劇作家ヴィトカ

ツィイ演劇や映画などで回

顧する企画だった。

今回上演するのは、▽実験的

な芸術プロジェクトとい

う「ジキルとハイド」(27~29

日)、▽演劇団クスクスクス

クスクスの女性が叫び、歌

い、朗誦する現代演劇「女た

ちの合唱」(10月4~6日)

▽スピニエフ・ラシェフスキ記念ワルシャワ演劇研究所

▽哲学者レシェク・コワコフスキの「ライロニア」(11月25~27日)、▽劇団ティアトル・カナ。

上田さんは「約150年間、母國を蹂躪された悲しい歴史を持つ国だけに、その演劇の言葉は剣のような鋒さをもつた。演劇自身も屈折したことあります」。

が今回の千円といつ入場料設

定は、通常の約3分の1。

「ヨーロッパでは、人気のあ

る芝居でも千円ぐらいで見

ことができる。日本の劇場と

しては経営的に厳しいが、こ

れを機会に『三度の飯』感覚

で見に来ていただけたら」。

(秦忠弘)